

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部		
	課名	農政課		
	係名	農業係		
	記入者		電話(内線)	186

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	畜産業振興事業				(3) 事業の 優先度	A
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市	
① 事業の区分	主要事業				(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)	
② 施策コード	31102	(総合計画掲載ページ)				会計区分	一般会計	
基本目標(政策)	3歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)			財源区分		市単独		
基本施策	3-1元気あふれる農業の振興(農業)			予算科目		款 6	項 1	目 5
施策	①活力ある産地の育成			予算書上の		畜産業振興事業費		
施策内容	2畜産経営の安定化			事業名称		(予算書 117 ページに掲載)		
(5) 事業期間	開始	昭和	58	年	4	月から	(5) 事務分類	
	終了			年		月まで (力年)	自治事務	
						根拠法令		

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)	
結城市家畜畜産物衛生指導協会 結城市酪農振興協議会	酪農家間の連携を強化し、消費者との交流を深め、酪農の振興を図る。 牛及び豚疾病ワクチンの予防接種により、安定な畜産物を生産し、畜産農家の経営の安定化を図る。 乳牛の疾病検査により、安全な畜産物を生産し、畜産農家の経営の安定化を図る。 畜舎及び堆肥舎に殺虫剤を散布することにより、害虫駆除等の環境対策を行い、畜産農家の経営の安定化を図る。	
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)	
酪農家団体の牛乳消費拡大事業や視察研修会に対して助成を行う。 養豚農家及び牛飼養農家が行うワクチンの予防接種に対して助成を行う。 乳用牛の疾病検査に対して助成を行う。 畜舎及び堆肥舎に散布する殺虫剤の購入に対して助成を行う。	酪農振興事業は牛乳等の乳製品の消費が減少しつつあることから、酪農家の連携強化や酪農振興を図るため酪農家から要望があった。家畜防疫事業は家畜伝染病に対する予防接種費が増えてきたことにより、畜産農家から要望があった。畜産環境対策事業は、近年住民から害虫における相談が増えてきており、害虫駆除を図るため畜産農家から要望があった。	
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	畜産農家は飼料高騰や家畜伝染病の発生増加によるワクチンや消毒薬等の衛生費増加等により、経営が非常に厳しくなっている。そのため畜産農家の支援の要望は多いので、それに応える必要があると思われる。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
実施計画							
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）	
事業内容		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	
(1) 事務事業費の コスト	酪農振興事業補助金	54	54				
	家畜防疫事業補助金	884	1,016				
	畜産環境対策事業補助金	168	250				
	合計	1,106	1,320				
	国庫支出金 (千円)						
	県支出金 (千円)						
財源	地方債 (千円)						
	その他特定財源 (千円)						
	一般財源 (千円)	1,106	1,320				
	合計 (千円)	1,106	1,320				
	補助・起債制度名						

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				指標の名称	単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）										
指標名	豚オーエスキー病予防接種頭数	目標値	頭		6,450	6,500	6,500	6,500		
		実績(見込)値		18,568	6,450					
	殺虫剤等購入戸数	目標値	件		25	25	25	25		
		実績(見込)値		24	25					
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）										
指標名	オーエスキー病及びアカバネ病陽性戸数	目標値	戸		0	0	0	0		
		実績(見込)値		0	0					
		達成率		%	%					
	畜舎等悪臭及び害虫苦情件数	目標値	件		6	3	3	3		
		実績(見込)値		8	6					
		達成率		266.7 %	200.0 %					
5. 事業評価										
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。										
現状維持										
(2) 項目別評価										
評価項目・客観的評価				理由						
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	畜産振興のためには必要である。						
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	法的な問題などもあり、行政がやるべき事業である。						
	手段の妥当性	A	妥当である	現在のやり方が一般的であり、特に問題はない。						
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	畜産農家は飼料高騰や衛生費増加等により非常に経営が厳しいため、補助事業等の支援が必要である。ただオーエスキー病ワクチン予防接種は接種頭数が減少してきていることからコスト削減を図っている。						
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	受益者は畜産農家であるが、畜産農家に対しては周知しているので偏りはない。						
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	畜産環境対策事業は成果の向上があるが、家畜防疫事業はオーエスキー病(AD)の清浄化した農家が増えたことにより、接種頭数は減少している。AD清浄化対策の最終目標は抗体陽性豚を無くし、ワクチン接種を中止することで						
進捗度	事業の進捗	A	順調である	ある程度順調に進んでいる。						
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。										
現在の事業については、ある程度目標が達成できれば経営の安定化が図られるため、次の事業に展開していくことも必要であると思われる。ただ畜産農家は飼料高騰や生産費増加等耕種農家よりも生産費がかかり、経営が非常に厳しいため、何かしらの補助事業等の支援は必要である(耕畜連携に対する補助等)。										
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？										
畜産農家の経営の安定化を図り、畜産業を継続的に進めてもらうため、畜産農家の意見を聞き、事業に反映できるようにする。										
6. 事業の方向性判断										
評価主体		28年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠					
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。					
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			飼料の高騰・価格の低迷など畜産経営をめぐる環境は厳しさを増しているため、生産振興に対する支援の強化が必要である。また、園芸農家では家畜のふん尿を原料とした堆肥の需要があることから、畜産経営の安定化に向けて、畜舎及び堆肥舎の環境対策を強化する必要がある。					
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。					